

福島県浪江町 水稻実証栽培の実施概要

実施概要

実施場所： 居住制限区域の2箇所（下図参照）

福島県双葉郡浪江町酒田地区約 60a（コシヒカリ）、約 60a（天のつぶ）

生産者： まつもと きよと 氏、 はんがい よしひろ 氏
松本 清人 氏、 半谷 好啓 氏

田植日： 平成26年5月16日（金）

収穫日： 平成26年10月4日（土）（松本氏）、10月8日（水）（半谷氏）

収穫量： コシヒカリ 3,630kg、天のつぶ 3,180kg



全量全袋検査結果（食品衛生法に定める基準値は 100Bq 以下）

		(30kg/袋)
	コシヒカリ	天のつぶ
25Bq未満	120	106
25～50Bq	(※) 1	0
51～75Bq	0	0
計	121	106

(※) もみすり機投入直後の検査袋

(もみすり機のとも洗い不足による数値)

(※) 提供米にこの袋のお米は含まれていません



左側が浪江町に派遣中の本村賢彦さんです

◆福島県浪江町で生産されたお米を食堂で提供するにあたって◆

平成26年4月に浪江町に派遣された当初は、震災当時のままの街並みや荒廃した自然があり、ようやく町内での除染がスタートし、浪江町の酒田地区で水稻を栽培できる状態となりました。

しかし、除染後においても、農地は作物栽培に適した栄養のある土壌ではありませんでした。さらに、水の問題、放射能汚染の問題など、不安要素も、未だ少なからずありました。そのような状況の中、5月16日に田植えを行いました（水稻実証栽培）。

環境省、東北農政局、福島県などの応援もあり、浪江町では4年ぶりとなる田植えを行いました。が、実証栽培することに反対意見もありました。

「作った米は基準値以下であっても廃棄しろ」「お米なんかできない」・・・などなど。

農業者も周りからの意見に気持ちが少し弱くなっていたこともありました。

とは言っても、震災後、荒廃していく浪江町で、何とか「復興の見える化」をしなければ、浪江町民たちの、地元に対する気持ちは離れてしまうのではないかと・・・？

そこで浪江町民に対し、広報誌やFacebook等のSNSを通じて稲作活動や生育状況をPRし、また応援の言葉を頂戴しながら、農業者を支援・お手伝いしてきました。

幸い天候に恵まれ、大きく育った稲穂。ついに、10月上旬の収穫を迎えました。環境省からは大臣、副大臣、政務官、また、農政局や福島県の方々が来町され、町、農業者に対して激励をいただきました。また、皆で鎌を持ち、稲刈りを行うという大々的なイベントとなり、マスコミでも大きく取り上げてもらうことができました。

収穫したお米は収量もよく、基準値以下の安全・安心であることが証明され、町、農業者ともに一安心。荒廃していた浪江町が今まさにふるさと再生へ大きく舵を切ることとなりました。今年度の浪江町農業は復興元年。浪江町は復興への一歩を歩みました。

本村 賢彦（特許庁から福島県浪江町派遣中）